

めぐみイエス・キリスト教会

2024年11月3日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第730号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌235「罪 重荷を除くは」 p. 356

【交読文】 No.48 イザヤ書35章 p. 917

【賛美Ⅱ】 新聖歌448「神より生まれし者よ」 p. 722

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 ルカの福音書7章11節～17節(新約p. 124)

【礼拝説教】 《やもめの一人息子のよみがえり》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書7章11節～17節)

7:11 それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大勢の群衆も一緒に行った。

7:12 イエスが町の門に近づかれると、見よ、ある母親の一人息子が、死んで担ぎ出されるところであった。その母親はやもめで、その町の人々が、彼女に付き添っていた。

7:13 主はその母親を見て深くあわれみ、「泣かなくてもよい」と言われた。

7:14 そして近寄って棺に触れられると、担いでいた人たちは

立ち止まった。イエスは言われた。「若者よ、あなたに言う。起きなさい。」

7:15 すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めた。イエスは彼を母親に返された。

7:16 人々はみな恐れを抱き、「偉大な預言者が私たちのうちに現れた」とか、「神がご自分の民を顧みてくださった」と言っ
て、神をあがめた。

7:17 イエスについてのこの話は、ユダヤ全土と周辺地域一帯に広まった。

●ポイント1. ナインの町とは？

■ナイン「かわいい」という意味。カペナウムから南西に約30キロ離れた町のことである。聖書に1度しか見られない地名であるが、ナザレの南東約10キロの所にあるネインと同定される。かつては比較的重要な町であったことがうかがえる。

●ポイント2. 命の主とは？

※ヨハネの福音書1章4節「使徒ヨハネの確信」(新約p.175)

1:4 この方には命があった。この命は人の光であった。

●ポイント3. 主イエス様の招きとは？

※ヨハネの福音書6章35節「いのちのパン」(新約p.189)

6:35 イエスは言われた。「私がいのちのパンです。私のもとに来る者は決して飢えることがなく、私を信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」

※マタイの福音書11章28節「すべて疲れた人」(新約p.21)

11:28 「すべて疲れた人、重荷を負っている人は私のもとに来なさい。私があなたがたを休ませてあげます。」

◎ルカからの前回のメッセージ【百人隊長のしもべのいやし】

《この奇跡の話は、ルカとマタイの福音書に記載されています。この二つの平行記事を比べますと、二つの点で大きな違いがあることに気づきます。まず、時制の前後が異なっています。

そして、もう一つは、ルカでは、ローマ軍の百人隊長は、ユダヤ人の長老たちを主イエスの御もとに遣わしたことになっていますが、マタイでは、百人隊長自身が主の御もとに来たことになっています。

また、このしもべですが、伝承によりますと、百人隊長が息子のよう
に愛していた青年であったと言われていました。

また、百人隊長は、カペナウムを護衛する責任者として、主イエスが成されたしるしや奇跡のことを耳にしていたはずですし、彼自ら、主イエスの御もとに願い出るのでから、主の御顔も知っていたに違いありません。彼は主に対して、非常にへりくだっていました。

特に、「ただ、お言葉を下さい」と言う彼の言葉こそが、主イエスが絶賛することになった、彼の信仰なのです。

信仰とは神様の言葉を信じることです。ヘブル書には、『信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。』と書かれています。百人隊長は、主イエスが神の子であることを、この時すでに信じていたと思われま

す。そして、約3年後のことです。過越の祭りが始まる前日の金曜日に、主イエスは、ゴルゴタの丘において、十字架に掛けられます。

その十字架刑を執行したのが、ローマ軍の百人隊長と四人の兵士でした。その百人隊長こそが、かつて、主イエスに自分の愛するしもべの青年をいやしてもらった同一人物であったと私は考えています。「この方は本当に神の子であった。」と、彼の確信の告白こそが、その証しであり、そしてその時、彼は救われたと私は信じています。》

◎お知らせ

※11月10日の第二主日礼拝は、平常通りです。ルカからです。